

シラバス

(令和5年度 3年生用)

シラバス（学習の手引き）の活用

- 科目のねらい、目標、講義計画（学習内容・評価方法）等が示されているので、確認して授業に臨むこと
- 1科目に複数の講師がいる場合、講義順は順不同になるため注意する
- 授業科目名とテキスト名は一致しない
- 何を目的に、何を学び、どう評価を受けるのかを知っておく
- 3年生は2月までに68単位すべての修得が必要となる

令和5年度 32期生【3年次に修得すべき授業科目と単位】

単位修得数：18単位

専門分野Ⅱ：10単位

統合分野：8単位

科目名	講師名	単位	科目名	講師名	単位
《 専門分野Ⅱ 》 ※実務経験者による実習			《 統合分野 》 ※実務経験者による講義・演習・実習		
成人看護学実習		2 (90)	看護の統合	高野・國井 須田	1 (30)
老年看護学実習		2 (90)	統合技術演習	國井・他全員	1 (30)
小児看護学実習		2 (90)	看護研究の基礎	椿・他全員	1 (30)
母性看護学実習		2 (90)	看護観演習Ⅱ (自己の看護観) (講演会 4h 含む)	椿・他全員 ()	1 (30)
精神看護学実習		2 (90)	在宅看護論実習		2 (90)
			看護の統合実習		2 (90)

看護の統合

1単位（30時間 15コマ）講義・演習

高野 紀子・國井 直子・須田 由紀

【授業概要】

看護現場において看護管理、医療安全管理教育の実践者から講義を受けるとともに、多職種連携やチームナーシングの事例演習を行う。（DP1,DP3,DP4,DP6）

【科目目標】

1. チームで看護活動を行うための看護管理の基礎を理解できる。
2. 看護管理を学び、他職種との協働における自己の役割を認識できる。
3. 看護業務中の危険要因を知り、事故防止のための知識、技術を理解できる。
4. 安全な看護を提供するための判断力、実践力を高めることができる。
5. 演習を通して専門職としての責任感と倫理観を身につけることができる。

【講義計画】

- | | |
|----|---|
| 高野 | 1. 看護とマネジメント、看護職のキャリアマネジメント
2. 看護サービスのマネジメント
3. マネジメントに必要な知識と技術
4. 看護を取り巻く諸制度
5. 組織的な安全管理への取り組み
6. 医療安全対策の国内外の潮流 |
| 國井 | 7. 医療安全・事故防止の考え方
8. 療養上の世話の事故防止 |
| 須田 | 9. 医療安全とコミュニケーション、チーム医療
10. 日常業務のマネジメント
11. 複数患者受け持ち：1日の業務の組み立て方
12. 演習；医療安全をふまえた複数受け持ち時のスケジュール管理
13. 〃
14. 修了試験 |
| 國井 | 15. 実習時の医療安全 |

【評価方法】

筆記試験	高野 50点		
	須田 40点		
	國井 10点	合計 100点	
			(演習後課題提出の場合あり)

【教材】

教科書：＜系統看護学講座＞看護の統合と実践1 看護管理
＜系統看護学講座＞看護の統合と実践2 医療安全

【備考】

参考文献：看護職のための関係法規
医療安全ワークブック 第4版

ヌーヴェルヒロカワ
医学書院

統合技術演習

1 単位（30 時間 15 コマ）演習

國井 直子他全員

【授業概要】

あらゆる領域の教員が授業を受け持つことで、様々な臨床現場の事例を想定した多重課題演習を行い、新人ナースの課題についてチームで考えることができる。また複数患者を受け持つ場合の事例展開をチームで考えることができる。(DP1,DP2,DP4,DP5,DP6)

【科目目標】

1. 既習学習を活用し、看護の優先度を判断できる。
2. グループで協力し、リーダーシップ、メンバーシップの役割を認識できる。
3. 他職種との協働、調整の役割を理解できる。
4. 一勤務帯の看護管理に必要な看護業務内容を抽出できる。
5. 看護活動に必要な自己の課題を明らかにできる。

【演習計画】

1. 科目のねらい、目標、各論実習に向けたガイダンス
2. 既習学習活用ガイダンス 成人看護学
3. // 老年看護学
4. // 小児看護学
5. // 母性看護学
6. // 精神看護学
7. // 在宅看護論
8. // 看護の統合と実践
9. 多重課題への対処（演習他）
10. //
11. //
12. //
13. //
14. 看護の統合
15. 実習に沿った演習説明・実施
複数患者の事例展開：看護の計画・援助の優先順位の決定と時間管理
複数患者の事例展開：チームナーシング方式・リーダーおよびメンバーの役割

【評価方法】

- 出席点 1 コマ×2 点 (30 点分)
多重課題演習評価表に基づき評価 (50 点分)
看護の統合事例展開課題 (20 点分)

【教材】

- 教科書：＜系統看護学講座＞看護の統合と実践 1 看護管理
＜系統看護学講座＞看護の統合と実践 2 医療安全
その他各自必要な文献を持参すること

【備考】

看護研究の基礎

1単位 (30時間 15コマ) 演習

椿 奈穂・他全員

【授業概要】

看護の初学者として一連の研究計画を立案、実施し、自身の看護を振り返り客観的に表現する看護研究の基礎を身につける。(DP4, DP5, DP6)

【科目目標】

1. 一連の事例研究を通して研究的態度を学ぶことができる。
2. 文献学習の意義、読み方、活用方法を学ぶことができる。

【講義計画】

1. 研究オリエンテーション (論文の評価、文献活用の仕方、研究発表会・分科会の進行、役割)
2. 個人ワーク (担当教員によるゼミナール形式)
3. //
4. //
5. //
6. //
7. //
8. //
9. //
10. //
11. //
12. 研究発表会 (学園祭)
13. //
14. 研究分科会
15. //

【評価方法】

研究論文、研究発表会、分科会：100点
評価表に基づき、担当教員・講評教員による評価とする。

【教材】

教科書：坂下玲子ほか：看護研究〈系統看護学講座 別巻〉，第2版，医学書院，2023.

【備考】

参考文献：白佐俊憲：パソコン・ワープロ時代の看護研究論文〈実践サポートシリーズ〉，日総研，1997.
黒田裕子：看護研究；step by step，第4版，医学書院，2017.
松本孚・森田夏実編：わかりやすいケーススタディの進め方；テーマの決め方からレポートの作成・発表まで，第2版，照林社，2009.
V. ヘンダーソン：看護の基本となるもの，日本看護協会出版会
上野 栄一ほか：楽しくなる看護研究，メヂカルフレンド社，2012.

看護観演習Ⅱ（自己の看護観）

1単位（30時間 15コマ） 演習

椿 奈穂・他全員

【授業概要】

3年間のキャリアを振り返り、看護観を具体的に表現する。(DP2, DP4, DP5)

【科目目標】

1. 3年間の学習を通して築いた現時点の自己の看護観を明らかにできる。

【講義計画】

1. オリエンテーション（目的・内容・方法）・演習計画の立案
2. 個人ワーク（担当教員によるゼミナール形式）
3. //
4. //
5. //
6. //
7. //
8. //
9. //
10. //
11. //
12. //
13. //
14. 講演会
15. //

【評価方法】

講演会は出席を旨とする。

看護観レポート：100点

評価表に基づき、担当教員による評価とする。

提出期限遅延は減点とする。

【教材】

【備考】

担当教員、レポート書式等は看護研究の基礎に準じる。

講演会欠席の場合、別途レポートを課す。（レポート未提出の場合は減点対象とする）